



真の成功と幸福は、人格にあり その 3

59 回生 学年主任

12 月 14 日に行われた球技大会が、59 回生の 3 年間での最後の学年行事となりました。

12 月にしては暖かい気候に恵まれて、皆さんの試合もとても熱く、しかし、笑顔で楽しそうに行われていました。とあるクラス的女子は、期末考査前の昼休みに自分たちでボールを用意し、グラウンドで球技大会の練習をするほどの熱の入れようでした。惜しくも優勝は逃しましたが、「2つも勝てた!!」と満面の笑みで報告してくれました。試合に勝った喜びよりも、クラスメイトと力を合わせて成し遂げようとした過程に喜び、幸福感を得ていたように思えました。

さて、前回の学年通信は、『みなさんの人生において 7 つの習慣を身に付け、「成功」を勝ち取ることを強く願っています。』との一文で終わりました。

「成功を勝ち取り、幸福を得るためには人格が備わらなければならない。人格はその人の考え方であり、考え方は行動に表れその繰り返しが習慣である。」そのため、良い習慣とはというテーマで、2 回にわたって書いてきました。

そもそも幸福とは何でしょうか。広辞苑によると「幸福」とは、「満ち足りていること。不平や不満がなく、たのしいこと。また、そのさま」とあります。また、過去に様々な人が「幸福・しあわせ」について語っています。哲学は人の「幸福」について現在までどう語っているのでしょうか？

ギリシャ哲学で有名なソクラテス(前 470 -399)は、人の生きがいは「ただ生きることでなく、善く生きること」に求められるとし、そのことの大切さを自分の死を以って証明しました。プラトン(前 427 -347)においては「善はイデア(理想)にまで高められる」としています。

人間の魂が高められ心身の要求が満足された理想的境地を考えれば、それが幸福でしょう。幸福とは、何かを手に入れることややりたい職に就くことそのものではなく、それらを通じて自分自身が満足している状態をいいます。

社会契約論で有名なフランスの哲学者 J・J=ルソー(1712-1778)は「人は常に自分の幸福を望むものだが、その幸福を見分けることは出来ない」といっています。また、ウォルト・ディズニー(1901-1966)は「幸福とは心の状態を言う。物事をどう見るかだ。幸福とは満足することだと思っているが、これは金持ちであることを意味してはいない」と語り、物質的な満足ではなく心の満足であるとしています。

いずれにしても人は生まれながらにして幸福を求め、幸福を得ることを人生の目的としているように思えます。簡単なことを達成することより、様々な困難に打ち勝ち何とか手に入れたものこそ大きな達成感を得ることで人は、より幸福を感じることができるのではないのでしょうか？

わたしは、みなさんがそれぞれの人生において多大な困難を乗り越え、おおいに幸せを感じることができると思っています。

最後にアラン(1868-1951)の「幸福論」より

「幸福は降ってくるものでも、与えられるものでもない。自分でつくるものなんだ。」

球技大会

12 月 14 日(木)、体育館でバスケットボール、グラウンドではサッカー種目が実施され、最後の行事をクラスみんなで楽しみました。



総合優勝 **3 組** 総合準優勝 **1 組**



Smith Hill 高校から留学生が来ています

オーストラリアの姉妹校であるスミスヒル高校の 4 名の生徒が 12 月 9 日より 5 週間の予定で本校に短期留学中です。主に 2 年生の授業に参加していますが、少しだけ 3 年生の授業にも参加してもらい、県宝生が近隣の観光地についてのプレゼンテーションを行いました。短い時間でしたが、お互いが学習中である英語と日本語での交流を楽しみました。



1 月の行事予定

1 月 9 日(火) 大掃除、始業式
13 日(土)、14 日(日) 大学入学共通テスト
15 日(月) 共通テスト自己採点
17 日(水) 1.17 追悼行事、ひょうご安全の日

22 日(月)~24 日(水) 学年末考査

24 日(水) 大掃除、学年集会、LHR(考査終了後)
25 日(木) 自宅学習(~2 月 27 日まで)
マラソン大会(ボランティア生徒のみ補助参加)
26 日(金) ワックスがけ(ボランティア生徒のみ参加)、漢字検定
29 日(月) ワックスがけ(ボランティア生徒のみ参加)

学校カウンセリング

1 月 15 日(月)
26 日(金)

2 月の予定

2 月 28 日(水) 卒業式予行
29 日(木) 卒業式